

ジンリムカ 文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2024. 7. 26

No. 23



二風谷コタンは平取町を代表する文化振興エリア。背後には文化を継承するための素材採取の場である山川が隣接する

平取町の文化的景観を知ってもらうために —文景協「平取大会」の開催—

令和6年4月現在、全国で72カ所の重要文化的景観（国文化財）が選定されています。その中で、北海道内も含めアイヌの伝統を対象としたものは、現在のところ平取町だけです。「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」は、山川利用の知識や宗教、わざの継承など、無形の要素に支えられているものが多くあります。情報を可視化して内容の理解に務めないと、その奥深さを味わいにくいという特徴があります。

そうした中、全国の文化的景観関係者に平取町を知ってもらうための転機が訪れました。令和5年度から2カ年、全国文化的景観地区連絡協議会（文景協）の会長を平取町長が担うことになり、令和6年度の大会を10月24日（木）～25日（金）に当町で開催することが決まりました。

平取町には、近代以降の都市開発から外れた地方ならではの営みや文化継承の姿があります。大会に参加いただく全ての方に感動してもらえよう、平取町ならではのおもてなしを検討しているところです。平取大会を含めた文景協の大会は会員以外のどなたでも参加可能です。後日、文景協HP（QRコード）に大会の詳細を掲載しますので、ご覧の上、奮ってご参加いただければと思います。

（長田佳宏）



文景協 HP



令和6年度は、文化的景観の制度ができてから20年の節目となります

イギリスのジャパン・ハウス派遣事業報告会

令和5年11月16日から開催していたジャパン・ハウス ロンドン（以下、JHL）での「アイヌ・ストーリーズ展」が令和6年4月21日に無事会期終了となりました。イギリス派遣事業について、5月18日（土）にシシリムカ文化大学講座で平取町民ほか関係者による報告会が行われました。報告会は、オンライン配信も行い、会場65名、オンライン48名、合計113名の方々に参加していただきました。



報告会の様子

JHL 館長であるサム・ソーン氏と JHL 企画プロジェクト部長であるトーマス・いづみ氏からご挨拶をいただきました。報告は、二風谷アイヌ文化博物館の長田館長をはじめ、サイモン・ライト氏（JHL 企画局長）、加藤博文氏（北海道大学アイヌ・先住民研究センター）、長野環氏・木村弘美氏・及川直美氏（平取アイヌ文化保存会）、貝澤守氏（二風谷民芸組合）から、料理や工芸、舞踊など、さまざまな内容・視点で発表いただきました。



ジャパン・ハウス ロンドン サム・ソーン館長のご挨拶

報告会を通して地域住民や一般の方々に、ジャパン・ハウス ロンドン派遣事業の内容を深く知っていただくことができました。実際にイギリスに行ったメンバーにとっても、とてもよい経験になったという声がありました。異国の地での学びや交流が、今後の活動につながっていくことと思います。

（守屋李佐子）

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 特別展のご案内

10月8日（火）から12月8日（日）の日程で、第30回特別展を開催します。本年度は、沙流川流域で着用されてきた刺しゅう入りの着物（主にチカラカラペ・カバラミプ）について展示を予定しています。

今回は、着物の地域性や人（作り手・先人）に焦点を当て、想いや技術の受け継がれ方、人と人とのつながりを、パネルや写真、着物などの展示を通して紹介します。その他に、インタビュー映像なども上映する予定です。ぜひ、見学にいらしてください。

（守屋李佐子）



カバラミプ（当館所蔵）

ニール・ゴードン・マンロー記念事業 アイリーン・マンロー氏の招へい

スコットランド出身の医師・人類学者ニール・ゴードン・マンロー博士の功績を称える「マンロー先生を偲ぶ会」が6月23日（日）、二風谷の旧マンロー邸で開催されました。

マンロー博士は明治24(1891)年に来日し、横浜や軽井沢で暮らしたあと、二風谷に^{にぶたに}住まいを移し、昭和17(1942)年に78歳で亡くなるまで地域医療とアイヌ研究に貢献しました。

旧マンロー邸内では令和5年度開催の二風谷アイヌ文化博物館特別展「二風谷に生きたマンロー先生」のパネルを抜粋して紹介したミニ展示も実施され、多くの方に来場いただきました。

また今年は、これまでに偲ぶ会が20回開催できたことを記念して、マンロー博士のお孫さんにあたるアイリーン・マンローさんをドイツからお招きしました。

アイリーンさんは6月19日(水)に来日し、横浜を訪問、博士が勤務した病院や、発掘調査を行った貝塚などをめぐりました。その後二風谷に移動し、歓迎のレセプションパーティーと偲ぶ会に参加したほか、平取聖公会の訪問、マンロー博士の墓参、博士が撮影したイオマンテ映像の鑑賞を行いました。そして釧路、白老、登別にて博物館を見学するなど、アイヌ研究の業績に触れ、同月28日（金）にはドイツに帰国されました。

アイリーンさんが来日し二風谷を訪れたのは平成23(2011)年以来の13年ぶりとなります。今後もこうしたつながりを深めながら、マンロー博士の足跡を語り継いでいくことが求められています。

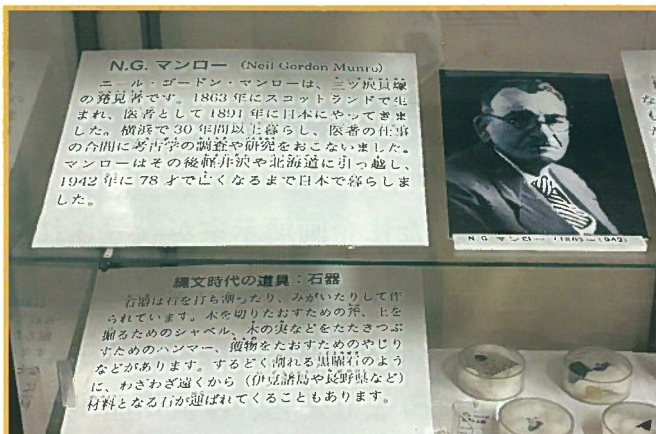
(西 希)



▲ミニ展示を見学するアイリーンさん



▲「マンロー先生を偲ぶ会」の様子



▲横浜市立三ツ沢小学校校内 マンロー博士の展示



▲釧路市立博物館でマンロー関係資料を閲覧するアイリーンさん

◆沙流川歴史館企画展終了しました

4月23日（火）から5月26日（日）まで令和6年度沙流川歴史館企画展『写真で見る昭和のびらとり』—第3弾—を開催しました。

今回の企画展は、平成24年、25年に開催した写真展の第3弾として、町で保管している広報用に撮影した写真から、昭和の町内の様子（各地域の街並み、風景、イベントなど）や当時の写真と移り変わった現在の様子を比較した写真を展示し、約3千人の方が来館しました。



※感想の一部を紹介します

- ・町で集めた写真が、時代を超えてこのように活用されていて大変興味深かったです。現代では新しいサービスや物がもてはやされる中、町としての「厚み」を感じ、びらとりの魅力を少しでも理解できたような気がしました。（札幌市）
- ・昔の平取と現在の平取の風景や暮らしの変化を目で感じられて良い勉強になりました。現代になるにつれ、建物が減っていくのも何とも言えない気持ちになりました。（町内）
- ・昭和のにぎわっている平取を見ていると、自分が子供のころの生まれ故郷を思い出して懐かしい気持ちになりました。（岩見沢市）
- ・今と昔での違いが写真でわかりやすかったです。自分のまちも見てみたいと思いました。（鹿追町）
- ・昔は舗装されていない道が多く、少し懐かしさを感じました。（旭川市）

◆沙流川歴史館特別展開催のお知らせ

10月1日（火）から12月1日（日）まで令和6年度沙流川歴史館特別展を開催します。今回は、狩猟の歴史や駆除の現状、野生動物との共存を考えるため、「野生動物とわたしたち」をテーマとした展示を行います。

10月13日（日）には、狩猟や野生鳥獣保護対策を研究している田口洋美氏を講師に特別講座も開催しますので、ぜひご来館ください。

◆沙流川歴史館入館者 50 万人達成

ありがとうございます!!

6月6日（木）に沙流川歴史館の来館者数が累計50万人に達しました。50万人目となった茨城県ひたちなか市の川田みゆきさんには、長田館長から「来館者50万人記念証明書」と町の特産品詰合せが贈られました。



◆沙流川歴史館一般利用のご案内

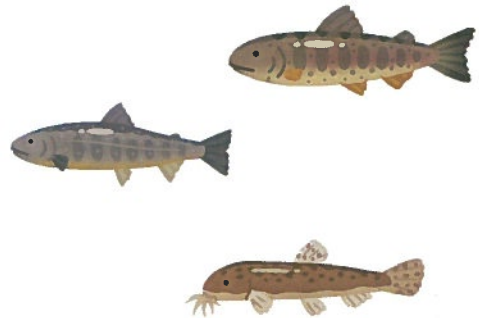
令和4年4月にリニューアルオープンした沙流川歴史館に新たに企画展示室が設置されました。ここは絵画、写真、書道、工芸品などの作品展示ができ、今年度から沙流川歴史館や町の主催事業以外の期間、一般の団体・個人の方も利用できるようになりました。利用は無料で最長2週間貸館できますので、作品展などの開催希望がありましたら、沙流川歴史館までお問い合わせください。（津川貴晃）

アイヌ語を覚えてみよう ㊤

イランカラプテ！（こんにちは！）

今回は、川にいる生き物のアイヌ語を紹介します。

アイヌ語	日本語
※ キクレッポ	ヤマベ（ヤマメ）
※ トウクシシ	アメマス（イワナ）
※ スブン	ウグイ
※ チチラ	ドジョウ



これらの魚は比較的今でも見ることができるのではないのでしょうか。一方で昔はいたのに最近、見ることがなくなったなあ、というものには以下のようなものがあります。

※ エソッカ	カジカ
※ ウクリペ（プヤプヤ）	ヤツメウナギ
※ ロコム（アイコツチェブ）	イトヨ
※ パキ	エビ
※ ホロカレイエブ	ザリガニ
※ ピパ	カワシンジュガイ
※ アムシペ	カニ



これらの生き物を見ることができない、ということは生息に適さない環境に変化しているということを意味し、とても残念に思います。

アイヌ民族にとって鮭は一番重要な食料で、シペ（シ・本当の イペ・食べ物）というその名が示す通り、まさに主食だったのです。

それでは最後に、この、シペ（鮭）が秋に、大群を成して遡上する様子を表した2つのアイヌ語表現を紹介しましょう。（「アイヌの民具」萱野茂著 すずさわ書店より引用）

カンナ チェブ ルプ スクシ チレ ポクナ チェブ ルプ スマ シル….

水面の魚の群は天日に焦げ、水底の魚は石で腹がすりむけるほどに….



トゥリ アアシ ヤッカ トゥリ ホクシ カ ソモ キ パクノ チェブ オカ ルウェ ネ….

舟をこぐ棹を立てても、その棹が倒れないほどに….

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）

（生涯学習課 関根健司）

沙流川流域の野鳥たち No.11

ブッポウソウ目カワセミ科

観察難易度：★☆☆☆

カワセミ

学名：Alcedo atthis

英語名：Common Kingfisher

漢字名：翡翠

大きさ 全長17cm 体重 19～40 g

生態 光の具合で色が変わるエメラルドグリーンの美しい川辺の野鳥です。美しい色は色素によるものではなく構造色といわれるもので、羽毛の表面の細かな構造に光が当たり複雑に反射することで、人間の目に様々な青を見せています。繁殖期にはオスがメスに獲物を与える求愛給餌を行います。オス・メス見分けるポイントはくちばしです。オスは全て真っ黒、メスは下嘴が赤いという特徴があります。

鳴き声 “ピーッ、ピッ”と透き通る高い声でモールス信号のように連続して鳴きます。

生息場所 低地から山地の河川や湖沼、市街地の池や河川など、水辺に棲息。離島では、海岸付近でも見られます。崖に巣穴を掘り、水辺からかなり離れた崖を利用することもあります。

行動 水際の枝や護岸、杭などに止まって獲物を探し、水面近くを直線的に飛翔、ホバリングで狙います。捕らえた魚をくちばしに横にくわえたまま枝や棒杭に強く叩きつけて動かなくなってから一息に頭から呑み込みます。縄張り意識が強く、自分の縄張りに別の個体が入ってくるとオスであろうがメスであろうが追い払おうとします。繁殖期はオス・メスが一緒に暮らしますが、繁殖期以外の時期はオスとメスが別の縄張りで過ごします。



オスのカワセミ
太田裕子氏（新冠町）提供写真



メスのカワセミ
『目に見えるいきもの図鑑』
より掲載

アイヌ文化との関わり

平取の長知内や屈斜路湖畔ではショカイ・カムイ（水神）といっている。屈斜路では昔魚がいなくて困っているとき、丸木舟で川に魚を探しに行った。川の標木に止まっていたカワセミが突然川に突き刺さるとイトウが舟の近くに浮き上がってきて、それを拾いあげ飢餓から救われた。それからこの鳥を神として大事にするようになった。また、塘路では「魚を支配する神」であって、この鳥が飛んで行くと魚がいるといってマレブ（回転釜）を持って川に行ったという。（更科源蔵 1977 年『コタン生物記Ⅲ』）（笠原早百合）

開拓財産 ～むかしのどうぐ～

【アイヌ民族と近代開拓】

テーマ1：学校(5)

にいかつが

ふるかわ

新冠の実業家の古川アシンノカル (1857

-1915) は、明治 29 (1896) 年に同胞の子

あねさるむら

弟教育のため自費で姉去村 (現新冠町字

おおとみ

大富) に古川教育所を建てました。教員

しずない

は静内 (新ひだか町静内) 出身のアイヌ

たかつき

民族で、北海道師範学校を卒業した高月

きりまつ

切松です。しかし唯一の教員である高月

が間もなく退職し、学校は翌年 5 月に閉

校となります。同校は北海道庁に献納さ

れ、明治 36 (1913) 年に姉去簡易教育所

(姉去土人学校) として開校しました。



▲ 新冠御料牧場騎手と付き添いのアイヌ。大正 11 (1922) 年撮影。
写真蔵：北海道大学附属図書館

『平取町百年史』(2003) によると、新冠御料牧場 (明治 5 [1872] 年創立) の経営に伴い、肥

ふもと さるぐん ぬきべつ むらおおあざ

沃な姉去の土地から全住民 70 戸・300 人を 50 km 離れた日高山脈の麓の沙流郡貫気別村大字ポ

ロマップに移住させました。実際に移住したのは 27 戸程度で、この土地を嫌って移住しなか

あつが

つて

った人々や、静内や厚賀などアイヌが多く住む場所に伝手を頼って移住した人々もいました。

かみぬきべつ

大正 5 (1916) 年には姉去コタンの強制移住に伴い、学校が平取の上貫気別に移設され、上貫
気別尋常小学校*と改称されました。当時の児童数は 18 名、初代校長は佐藤富士丸です。

昭和 48 (1973) 年に平取町で大字・小字の廃止と地名・地番改正が実施された際に、上貫気

あさひ

別という地区名は旭に改められました。地区

名の改正に伴い校名は旭小学校となりました。

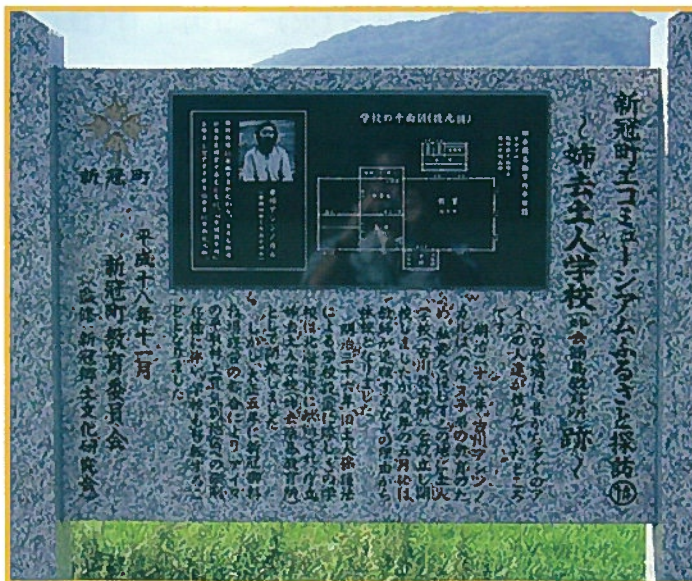
学校は平成 7 (1995) 年に閉校しま

したが、現新冠町大富に所在する石碑看板

は当校の礎となった姉去土人学校の歴史を

現在に伝えています。(廣岡絵美)

*大正 5 (1916) ～昭和 16 (1941) 年までの校名。



◀ 姉去土人学校跡地 (現新冠町大富 197-1 内) に
設置されている石碑看板。学校の平面図や古川
アシンノカルの肖像写真が掲載されている。
写真蔵：新冠町

平取町開拓財産展示施設 (平取町字荷負 77-3) 見学のご案内

【開館日時】*変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日 (祝日休館) 9:00～12:00

上記以外の日程のご見学についてはお問合せ下さい。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892

または

沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■第30回特別展

「沙流アイヌの着物」 (仮称)

期 間：10月8日(火)～12月8日(日)

場 所：二風谷アイヌ文化博物館

○特別展関連講座・映画上映会

講師：映画プロデューサー 河合早苗氏

ドキュメンタリー映画上映「フィシスの波文」

期日：11月10日(日) 13:30～15:30

■アイヌ文化体験学習講座

～アイヌ文様をつくってみよう～

期 間：7月27日(土)～8月25日(日)

講 師：二風谷民芸組合所属アイヌ工芸師

場 所：二風谷工芸館

体験料：無料

■旧マンロー邸一般公開 (1階のみ)

期 間：5月1日(水)～10月31日(木)

○見学希望日の1カ月前までに二風谷アイヌ文化博物館までお申し込み下さい。追って見学の可否をご連絡します。

*10名以上の団体のみ *平取町職員が同行

■平取町開拓財産展示施設

○特別開館：8月11日(日)12日(月・祝)
10:00～14:00

○通常開館：5～11月の月・水・金曜日
9:00～12:00 ※祝日休館

沙流川歴史館

■特別展

「野生動物とわたしたち」

期 間：10月1日(火)～12月1日(日)

場 所：沙流川歴史館企画展示室

休館日：毎週月曜日 (祝祭日の場合は翌日)

■企画展移動展

「写真で見る昭和のびらとり【第3弾】」

期 間：7月10日(水)～8月2日(金)

場 所：平取町開拓財産展示施設

※月・水・金の午前のみ開館

平取町

■第55回チプサンケ

期 日：8月17日(土)・18日(日)

問合先：平取町役場観光商工課

TEL 01457-3-7703

文化庁

■「文化的景観20年」事業パネル展

期 間：8月6日(火)～9月1日(日)

場 所：沙流川歴史館企画展示室

休館日：毎週月曜日

2024年7月

日	月	火	水	木	金	土
30	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

2024年8月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2024年9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5

2024年10月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

● 歴史館 休館日 ■ 博物館・歴史館 特別展 ■ 歴史館 企画展移動展 ■ 「文化的景観20年」事業パネル展



シシムカ文化財だより No. 23

2024年7月26日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中!



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中!

